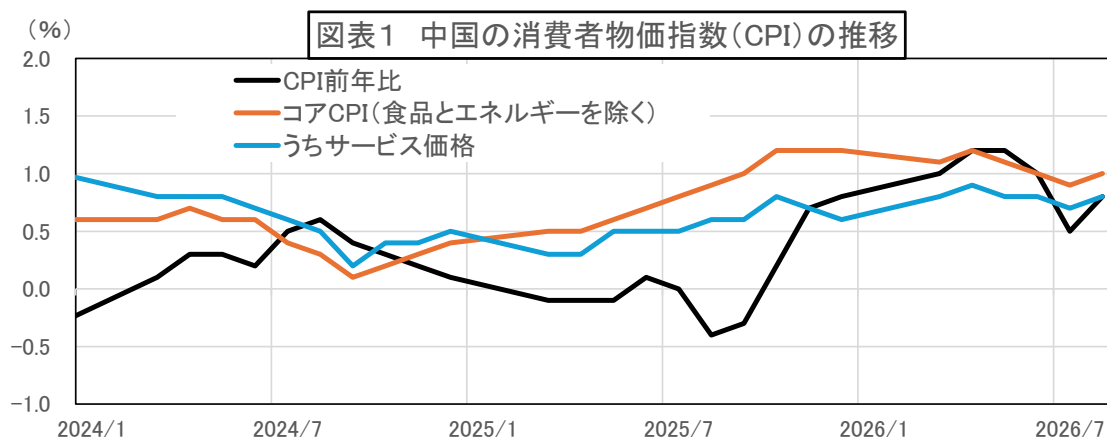


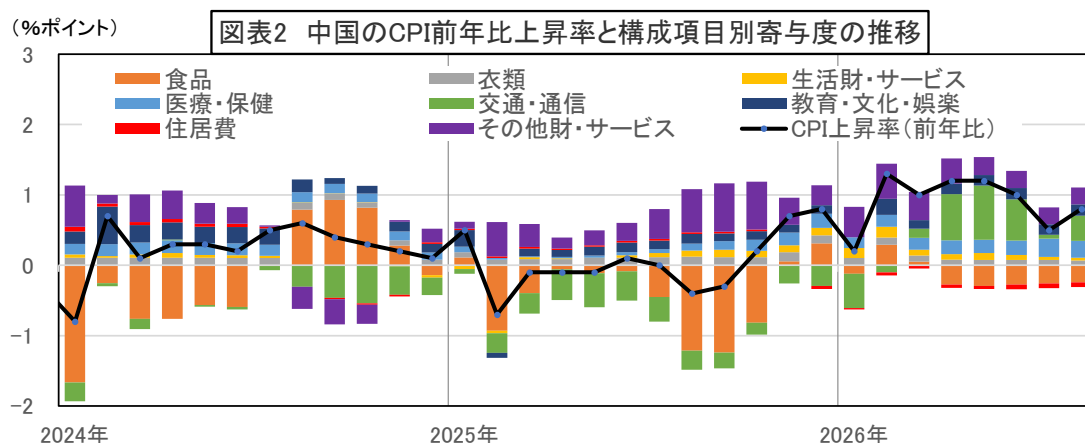
(中国)8月のCPIとPPIの上昇率はいずれも加速

2026年9月9日に発表された8月の消費者物価指数(CPI)は前月比0.4%、前年比0.8%となり、依然として低水準で推移しているものの、7月(同▲0.1%、同0.5%)から前月比、前年比ともに伸びが加速した。前年比のプラスは11か月連続となり、市場予想(前年比0.8%程度)とも概ね一致した。価格変動の激しい食品とエネルギーを除いたコアCPIは前月比0.1%、前年比1.0%となった(図表1)。



(資料) 中国国家统计局、Windより作成、直近は2026年8月。

8月のCPI前年比上昇率(前掲0.8%)の構成項目別寄与度をみると、「交通・通信」、「医療・保健」、「その他財・サービス」が比較的大きく寄与した一方、「食品」と「住居費」は依然として押し下げ要因となっている(図表2)。



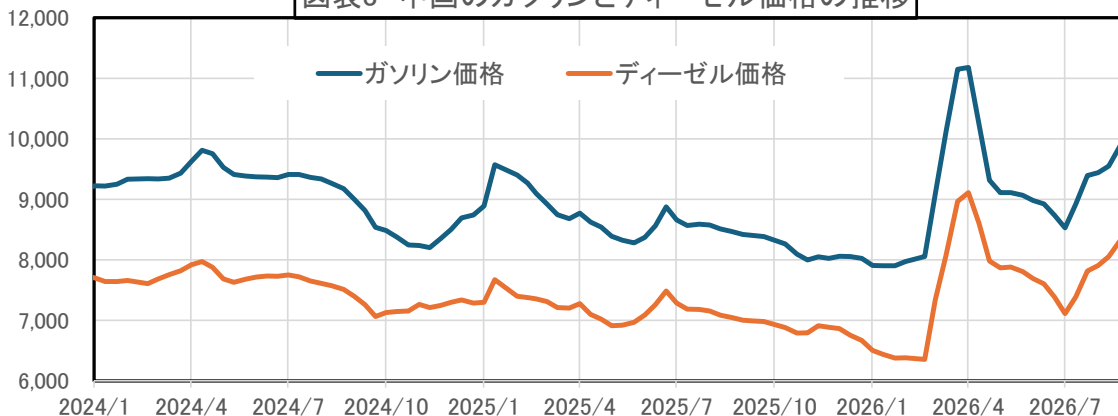
(資料) 中国国家统计局、Windより作成、直近は2026年8月。

「交通・通信」のうち、ガソリンなどのエネルギー価格は前年比4.1%と、7月(同0.6%)から大幅な上昇となり、CPI前年比上昇率を0.28ポイント押し上げた。特にガソリン価格は前年比9.3%と、7月から8.3ポイント上昇した(図表3)。加えて、スマートフォンやパソコンなどの端末機器に大幅な価格上昇がみられたことも押し上げ要因となった。さらに、医療・保健などのサービス価格は前年

比 0.8%と、7 月(同 0.7%)から小幅ながら伸び率が加速しており、これも当月 CPI 上昇率加速に寄与した。

(元/トン)

図表3 中国のガソリンとディーゼル価格の推移



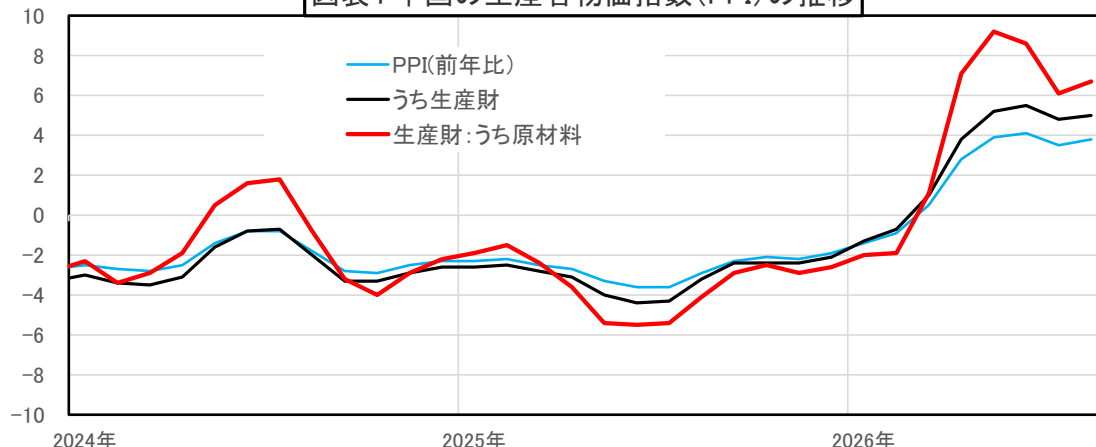
(資料) 中国国家统计局、Windより作成、直近は2026年8月31日。

他方、内需の弱含みが続くなか、消費促進策の効果も薄れ、自動車や家電製品など耐久消費財の価格は低位で推移した。また、食品価格も押し下げ要因となったが、特に豚肉価格は前年比▲11.8%と下落幅が縮小したものの、CPI 前年比上昇率を 0.22 ポイント押し下げた。

米国・イスラエルとイランの間で緊張が再燃し、中東情勢が不安定化するなか、9 月にガソリン価格の引き上げや食料品価格の上昇が見込まれる。もともと、内需の弱含みが継続する可能性が高く、9 月の CPI 上昇率は前年比 1.0%程度まで加速することとなり、引き続き低水準での推移が長く予想される。

(%前年比)

図表4 中国の生産者物価指数(PPI)の推移



(資料) 中国国家统计局、Windより作成、直近は2026年8月。

また、8 月の生産者物価指数(PPI)も、前月比 0.4%、前年比 3.8%と 7 月(同▲0.7%、同 3.5%)からいずれも加速した(図表 4)。6 か月連続の前年比プラスとなり、市場予想(前年比 3.6%程度)を上回った。その背景には、国際原油価格が再び上昇に転じ、中国国内の石油・化学関連製品価格の上昇に加え、銅などの金属価格も大幅に上昇し、AI 投資ブームを背景に半導体関連価格の上昇基調が続いたことが挙げられる。

9 月の国際原油価格の平均は 8 月を上回る可能性があり、金属価格も大きく上昇していることに加え、異常気象の影響が緩和するなか、公共工事の加速を背景に建材価格の下落幅の縮小が予想されることもあり、9 月の PPI 上昇率は前年比 4.0%前後へ加速すると見込まれる。

物価上昇率の加速は、中国人民銀行（中央銀行）に対し、これまで実施してきた金融緩和措置の効果を見極める時間的余裕を与える一方、物価上昇局面で追加金融緩和を実施するハードルを高める要因ともなろう。もっとも、中東情勢を背景とするコストプッシュ要因が主導する物価上昇であるため、金融政策運営の基本的なスタンスが大きく転換するとは考えにくく、当局は内需下支え策を中心とした緩和的な政策姿勢を維持するとみられる。